



のびのび いきいき 生涯学習

【都留少年少女発明クラブの紹介】

のびのび興譲館の一つ、「少年少女発明クラブ」では、創作する喜びと発明・工夫する楽しさを体験しながら、創造力を伸ばし、科学への関心を高めることを目的に、現在19名のクラブ員が月に2回、谷村第一小学校の発明クラブ教室にて活動を行っています。

その活動の中で、夏休みにはいろいろなアイデアを生かした作品を、山梨県が主催する「発明くふう展」に出品しました。毎年このクラブからは優秀な作品が選出されていますが、今年度は次の皆さんが入賞し、団体賞(クラブ賞)として「都留少年少女発明クラブ」が受賞しました。また、最優秀賞の鈴木克征君の作品と優秀賞の渡邊歩美さんの作品は、「全日本学生児童発明くふう展」への出品も決まりました。入賞されたクラブ員は次の方々です。おめでとうございます。

○最優秀賞(山梨県知事賞)

都留第一中学校3年

鈴木克征

作品

ディスクグラインダー角度調整機

○優秀賞(日本弁理士会会長奨励賞)

下吉田第一小学校4年

渡邊歩美(都留クラブ員)

作品 リニア天びん

○特別賞(山梨県教育長賞)

都留第二中学校3年

外川隆大

作品

ハサミいらすのカバー切り

○特別賞(毎日新聞社賞)

谷村第一小学校4年

本多正弥

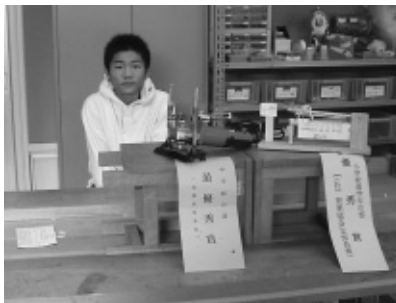
作品 しずくの落ちない傘

○優良賞(発明協会山梨県支部長賞)

谷村第一小学校6年

外川大海

作品 雨だれ一カ所傘



健全育成シリーズ(163) 子どもを叱る時



子どもを叱りすぎて、泣きながら眠ってしまった我が子の寝顔を見て「ああ、あんなに叱って悪かったな。ごめんね。」なんて思った事はありませんか。「今度は、もう少し話を聞いてあげよう。」と思うのですが、次の日になると、また別のことが目についてしまっていて叱っているのです。

叱るといふ事は、子どものことをよく見たり、心配したりしているということなのだから、親が十分子どもに関わっている証拠だと思えます。でも、あまり叱り過ぎると、子どもは自分のことを「親を怒らせる悪い子だ。」と思ったり、親に隠し事をするようになるようになります。子どもの叱り方、叱るタイミングは難しいのです。

では、どんな時に、どんな叱り方をしたらよいのでしょうか。子どもが「してはいけないこと」をした時です。例えば、人を傷つけた時、人の物をとった時には、きちんと叱らなければなりません。(子どもがSOSとしてこういう行動を起こした場合も考えられます。)ただ理由も聞かず、頭ごなしに否定するのではなく「いけないことはいけない。」ときちんと伝えることが大切です。

叱る時に気をつけなければいけないことは、全人格を否定するような言い方「おまえはだめな奴だ」など

という言い方はせず「○○するのは良くないよ。」という言い方をするのがよいでしょう。次に、ただどなりちらすのではなく、何がいけないのかをきちんと伝えることが大切です。そして、これからは、どうしたらよいのかを考えさせるのです。「今度からは、○○するのよ。」と対処の仕方を教えることも必要です。



でも、状況によって親自身が「カーッ」としている時には、そんなことを考えている余裕はなく、ついガミガミ言ってしまうます。そんな時は一息入れましょう。そして十秒くらい数をかぞえてから、話し出しましょう。

叱った後の接し方も大切です。「抱きしめてあげる」「頭をなでてあげる」などのスキンシップを十分にとる、「一緒にお茶を飲む」など、叱りっぱなしではなく、親が子どもを大切に思っている気持ち伝えることが大切です。

また、他の家庭や子どもと比べると、頑張りすぎず、自分の子どもの頑張りについていることを認めてあげ、この子も頑張っている、親である自分も頑張っていると思いましょ。これは、本当の事なのだから!

毎月第1日曜日は「家庭の日」 毎月第3日曜日は「青少年を育む日」 青少年育成都留市民会議編集委員